

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム灯り コスモユニット	評価実施年月日	平成21年9月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月9日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>・開設時に独自の理念を作り掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>・各ユニットに理念を掲示いつでも目に入ることで意識を心がけている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>・ご家族には契約時や入居時などに基本理念についての説明と理解を求め、パンフレットなどにも記載している。 ・地域の方々にも訪問時などにパンフレットを配布し、理念をみていただくようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>・管理者や職員は、入居者と隣近所の人達が気軽に声をかけ合い交流する場を大事にすることを心がけている。近所の人達も野菜や花などを差し入れてくれたりするなど、気軽にホームへ立ち寄ってくれている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>・町や地域行事に参加する機会を設け、入居者が地域の一員として様々な地域行事にて、地元の人々との交流を深めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>・地元の方が介護などに対する疑問や相談などを気軽に話してこられ、事業所もこれに対して力に応じてのアドバイスや相談に応じる事を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	<p>・毎月の定例学習会のテーマにかかげるなどして、権利擁護に関する制度の理解を深める場を設けていきたい。</p> <p>・権利擁護に関する制度の研修などがあれば積極的に参加していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	<p>・毎月の定例学習会のテーマにかかげるなどして高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けていきたい。</p> <p>・虐待防止についても研修などに積極的に参加し、知識を高め虐待防止に努めてきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のユニット会議などで利用者さまの不満や苦情に対する解決に向けて検討し、職員間でケアを統一するなどして利用者様の意見をサービスに反映させるようにしている。</li> <li>・入居者1人1人に対して、時々個別に居室訪問しゆっくり話をするようところがけている。</li> </ul>		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の面会時などには、極力利用者様の生活の様子や状況などを説明することをここがけている。又、定期的に灯りだよりを発行し、利用者の近況報告を行っている。</li> </ul>		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に計画作成担当が、ご家族の様の所へ訪問し、直接サービスなどに対する意見や不満などについて話し合う機会を設け、それらをサービスに反映させるよう、職員間で話しあう場を設けている。</li> <li>・面会時などのときにも職員へ気軽に話しかけられるような雰囲気作りを心がけている。</li> </ul>		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の定例で行われる、主任以上会議やユニット会議において運営に関する職員の意見について検討し合う機会を設け反映させている。</li> <li>・主任以上は、日頃職員から意見を汲み取るようところがけている。</li> </ul>		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が利用者やご家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるだけの人員確保ができない状況にある。</li> <li>・現在の状況では難しい状況にある。</li> </ul>		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ユニット間の交流する場を多く設けたりすることで職員の異動などによるダメージを極力防ぎ、いつでも気軽に利用者と職員が繋がりを持てるようにしている。</li> </ul>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人内外の研修に参加する機会をできる限り設けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・町主催の研修会などには積極的に参加している。 ・町内での同業者(グループホーム)との交流はあまり深められていない。	○	・出来る限り同業者との交流ができるよう、機会を設けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	・福利厚生という観点での飲み会などの実施はあるが頻度は少ない。 ・運営者は職員への個別面談を行うことにより、日頃思っていることなど話す機会を設けている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	・向上心を持って働いている職員に対しての評価はしてくれていると思うが、それに対する職員の満足度は少ないと思われる。全体的なモチベーションの向上には繋がっていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・入居される事前などに、直接代表の職員が訪問し利用者やそのご家族のニーズや相談。 ・日常生活の中で入居者が訴えてきたことに対し、又、変化がみられたときなど時間が長くなっても一対一で話すようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族からの相談や在宅時での利用者の詳細な情報を聞き取り苦労やニーズを受け止めながら信頼感関係を築いていけるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・相手の話を傾聴し、状況を見極め対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・事前にホーム見学や事前の情報を元に初期ケアプランを作成し少しでも早くホームでの生活に馴染んでいけるように利用者のニーズや状況を把握するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・1人の人としての生き方を尊重し、共に共感しあえる利用者と職員の関係を築いていけるように努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・ご家族様の存在を常に意識し、一緒にケアを行っていくチームとして、ご家族様の力を借りながら支えていくことを意識してケアに取り組んでいる。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・利用者のご家族の間に立ち、より良い関係を築いていける橋渡しになれるよう努めているが、様々な事情があり、すべてにおいて納得のできる対応ができていない。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・面会に足を運んでくださる馴染みの人達が再び足を運んでくださるような雰囲気作りや接客に努めている。 ・外出した際にも、地域の方との関係が保てるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・利用者全てが同じ考え方で、同じ関係を築いていくことは難しいが、なるべく利用者同士の人間関係を大事にできるように仲介するなどして、その場の状況に合わせ適切な支援をできるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も継続的な関わりを必要とするケースはないが、必要となった場合はできる範囲で対応したいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・利用者1人1人の暮らし方の希望や意向は様々あるが、職員間でその希望や意向についての実現についての検討をして、極力希望通りに実現できるような対策に取り組めるように心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・利用者、ご家族からの日常会話などから、これまでの暮らしぶりや生活環境等を聞き取りながら、印象が強い言葉や気になった事などは必ず記録に残すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・担当職員制を実施しており、定期的にアセスメントなどを実施してもらい、細やかな状況の変化を見落とさずにケアに取り組むことを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・計画作成担当が中心となり作成し、職員の意見を反映しながら共有しあえるケアプラン作成に努めている。 ・ユニット会議の中で職員と意見を協議することで、より良いケアにあたるようしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・3ヶ月に1回のケアプランの見直しを職員との意見を反映させながら実施している。 ・入退院により現状が変わった時などは、その時に応じたケアプラン作成に努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・記録に方法についても随時工夫しながらより良い記録が残せるように努めてはいるが、内容が不十分な状態である。	○	・記録の仕方についての研修があれば参加し、より良い記録が残せられるようにいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・町外への受診送迎や遠方から面会にこられるご家族の皆様のご宿泊などに対応し、利用者やご家族のニーズに応じられるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・訪問ボランティアの受け入れや、文化・教育機関等との繋がりを持ち、文化祭出展なども行っている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・区内にある他事業所とのサービス検討会議に出席し、情報交換や話し合いを行うと共に特別養護老人ホームとは個別に話し合う機会を設け、本人や家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。 ・他施設に入所申請している入居者もいるので、その申請先施設とは定期的に連絡を取り合い状況確認などを行い調整している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・権利擁護や成年後見制度の希望はないため、実際協働している場面はないが包括支援センターとは常に連携を図り、そのような事例が出た場合にスムーズに対応できるような体制を整えている。 ・権利擁護ではないが、口腔ケアの実践など地域包括支援センターと協力した事業を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>・定期的にかかりつけ医への受診を行い、遠方のかかりつけ医への受診にも送迎にて対応している。かかりつけ医とは連携体制が図られている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>・専門医の受診が必要な利用者に関しては、日常の状況を十分に専門医に説明し、適切な診断や治療が受けられるよう支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>・看護職員の配置はないため、緊急時の対応などに不安がある状況である。 ・入居者に変化や異常が見受けられれば、すぐに診療所受診するなどの対応を取っている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>・入院中も定期的に様子を伺うために訪問するなどして状況を確認し、職員にも周知している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>・終末期に向けた取り組みはしていない。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>・終末期に向けた取り組みはしていない。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	・移住時には、アセスメントや介護計画の詳細な内容をケア関係者に直接説明し、理解していただきながら少しでもダメージを防ぐことができるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	・プライバシーの保護については、職員採用研修中での教育や常日頃から職員1人1人が重視し、徹底し保護に努めている。 ・他入居者へのバッシングの発言の時は、さりげなく話題を変える努力をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・利用者の意見を尊重し、希望を実現できるように支援することを心かけている。 ・何かを訴えている様な表情の時には、積極的に話しかけをし要望を聞き出す事を心かけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・毎月の定例会議にて十分に検討する機会を設け職員側の都合を優先している行動などには改めて、その行動を見つめ直すことに心がけ利用者の希望にそって支援できることを増やしていけるように努めている。 ・じっくり話を聞いたり、農作業の付き添いをしたり、夜間であれば眠れずにいる入居者に、その都度対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・個々の価値観は違うものの、それぞれの利用者の好みやニーズを把握し、その人らしい個性を尊重できるように支援している。又、理容、美容に関しても希望のお店への送迎などの支援を行っている。 ・希望の美容院等へは、積極的に話しかけ、好天候の日に限らず、本人の希望に合わせて利用して頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	・各利用者の食事の好み把握したり、嫌いな物は極力出さないようにサービス提供している、又、簡単な調理や後片付けなどにも積極的に協力していただけるように声かけなどを実施している。 ・好き嫌いがある方には、代替えを用意し対応している。ADLに合わせて、食器洗い、食器拭きの手伝いをいただいている。	○	・全ての入居者に、食事の準備や片付けをして欲しいと望んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・利用者個々の健康状態にもよりますが、極力好みの物を日常的に楽しんでいただきたく、糖分には人工甘味料を使用するなどの工夫をしたりしながらニーズに応じられる支援を検討している。 ・おやつなどを買われに行かれるときは、付き添いをしたり送迎を行ったりしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・排泄に関する内部研修を実施するなどして、排泄に対する支援の考え方を学び、利用者個々の排泄習慣の把握や排便コントロールなどを実施し、気持ちよい排泄習慣を送られる世に支援することに努めている。 ・意思表示の不可の入居者には、定期的な声掛けや誘導を行い、失禁されないような対応をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・基本の入浴日は定めているが、個々の利用者の入浴スタイルを尊重し、又それを実現できるように話し合いの場を設けて検討を重ねながら、円滑な入浴が進められる工夫をしている。	○	・就寝前の入浴を希望される方には就寝前の入浴を実施したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・3ヶ月に1回のケアプランの見直しを職員との意見を反映させながら実施している。 ・入退院により現状が変わった時などは、その時に応じたケアプラン作成に努めている。 ・ADLの低下が予測される方以外は、全てにおいて強要の言動は控え、本人のリズムを尊重するように努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・その人の興味のある事などをリサーチし、色々と試してみることで見えてくることもあり、日々の生活の中で張りを与え、楽しめるものを職員1人1人が日々注目しながら実行することに努めている。 ・落ち込まれている発言をされている時は、話題を変える努力で前向きな考えを誘導している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・個々の状況に応じて、お金を所持、管理していただいている。トラブルの発生の元になる事もあるため、十分に個々の管理能力を見極める必要がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・買い物や散歩など、自発的な訴えには極力応じていながら、職員側からも、積極的に外出する機会を設けることを実行している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・気分転換を兼ねて、ドライブ外出を計画し、遠方でソフトクリームを食べてくるなどしながら楽しい時間を過ごしていただけるような工夫をしている。又、ご家族との外出などには積極的に応じながら対応している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・個々の家族関係の状況にもよるが、基本的にいつでも電話ができるように配慮しており、支援が必要な利用者には職員が代わりにかけるなどしながら対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・面会時間の制限は基本的には行っておらず、いつでも気軽に訪問していただけるような環境を整えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束については日頃から職員1人1人が意識しながら注意に心がけているが、具体的な学習会などの場を設けて学習する機会がまだない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・夜間以外の玄関や居室の施錠は基本的に行っていないが、利用者の状況によりやむを得ず使用しなければならない状況の場合などは必ず記録へ残すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプライベートな空間であることを十分に理解し、訪室の際は必ずノックをするなどして訪室を知らせる合図を実施し、夜間巡回なども心地よい入眠の妨げにならないようにそっと行うように配慮している。</li> <li>・夜間居室内で転倒危険度のリスクが高い入居者には、センサーを設置し、安全に配慮している。</li> </ul>		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物品を一律になくすことは、利用者間のトラブルの発生の原因にもなりかねないため、十分な検討の場を設け職員間で意見を統一させた上で実施している。</li> </ul>		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット報告書を記載することで、様々なケースに対する改善策を考えることや、又、振り返ることなどで事故防止に取り組んでいる。</li> <li>・居室内の転倒を防ぐためにセンサーを設置し予防に努めている。</li> </ul>		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命講習を受講し基本的な初期対応については学んでいるが、定期的な訓練を設けてはならず、実践できるレベルにあるのか把握はできていない。利用者個々の緊急時フェイスシートを備え、いつでも閲覧できるようにしている。</li> </ul>		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災訓練を消防署の協力の下実施し、災害時の対応についての避難方法や安全確保について、実践しながら職員、利用者共々学ぶ機会を設けている。</li> </ul>		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク対応に関しての不備は多い状況であるが個々の利用者の状況の変化に応じて都度職員間での協議の場を設けて、リスクに対応する認識を持ち、ケアするように努めている。又、ご家族にも都度説明している。</li> </ul>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・自らの意志により体調不良を訴えることのできない利用者もいるため、毎日のバイタルチェックを必ず行い体調の変化に十分気をつけながら異変を発見した場合には速やかな情報共有と対応する事を心がけている。 ・連絡帳を設け、記入を心がけ記入された事柄には職員各自が目を通すことに努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・緊急時フェイスシートや個人記録台帳などに利用者が服用している薬剤情報を綴り、職員がいつでも閲覧できるようにしている。又、処方内容が変わった時などは連絡ノートや、通院記録に記載し職員全員が周知できるようにしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・便秘が及ぼす影響については実際の現場にて十分に痛感、理解させられることがあり得る為、このような利用者に対して排便コントロールの支援をするなどして、便秘の予防ができるように努めている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・内外の研修を実施、参加することにより口腔ケアに対する理解を深めており、利用者個々の力に応じ支援が必要な方には口腔の清潔保持の支援をしている。	○ ・毎食後の他、食物摂取後の口腔ケアを実施したいが万全な実施ができずにいる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・毎日の水分量の記録のチェックを行い個々の利用者の状況に応じて、正しい食事量、水分確保が行われているか確認するようにしながら、利用者の変化を速やかに発見できるように努めている。 ・食べれる量に応じた食事の盛りつけに心がけている。	○ ・水分補給声掛けに努めているがどうしても応じてくれない入居者への対応が困難。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染予防に関するマニュアルを職員がいつでも閲覧できるようにしている。又、定例の会議の中で必要に応じて、検討するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を管理する上で賞味期限の確認を必ず行うように心がけ、又、調理器具の衛生面も定期的に消毒を実施するなどして心がけている。</li> <li>・旬の食材を優先的に使用するようになっている。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関先に入居者様に花を活けてもらい明るい雰囲気を作っている。</li> </ul>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を実感していただけるようにその季節に合った、ホール内や玄関の装飾などを実施している。</li> </ul>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者同士の人間関係に十分配慮しながらテーブルの配置などを決めている。</li> </ul>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が使い慣れた家具などを使用していただけるように入居時などに説明を行い、在宅の頃と同じような感覚で生活していただけるような配慮をしている。</li> </ul>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の居室空間を心地よい空間にできるよう、換気や温度調節のチェックをこまめに行うことを意識している。</li> </ul>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・利用者個々の身体状況を考慮し、必要に応じて居室内に手すりを設置したり、居室レイアウトを利用者と共に検討しながら変更したりするよう努めている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・個々の利用者の能力を見極め過剰なケアに対する自尊心を傷つける事などに注意を払い必要に応じて支援をしていく事に心がけながら自分らしく生活していただけるように努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・中庭の畑を利用し、野菜の栽培を行っている利用者もあり、又、向かいの公共の公園を利用して、憩いの時間を提供し、レクリエーションや談話をしながら過ごされることもあるなど、建物の外回りの環境を有効に活用している。		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない    ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない    ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない    ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない    ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない    ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない    ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない    ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない    ①

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>③</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>③</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)